



Koryo 陵 雲 High School

〒081-0011 青森県八戸市田向二丁目2番6号/電話 0178-44-8866/FAX 0178-43-9077

<https://kouryo-high-school.com/> /X-MAIL kouryo@chibagakuen.ac.jp

卒業証書授与式



3月1日(日)、第50回卒業証書授与式が挙行された。堀内英男校長先生は、卒業生一人一人に卒業証書を手渡し、成長した姿に目頭を熱くした。校長式辞では、千葉学園創業者千葉富江先生のお言葉「力が出るもの出せるもの」を述べ、「自分にしかできないことへの取り組みに希望を持ってチャレンジしましょう」とエールを送った。その後、PTA会長・細越様の祝辞、在校生代表の村田翼さん(2年・湊中学校出身)の送辞と続き、卒業生代表挨拶を高橋愛子さん(3年・第三中学校出身)が務めた。高橋さんは、高校生活の思い出を振り返り、支えてくださった仲間や先生方、保護者に感謝の気持ちを伝えた。式の終わりには、それぞれのクラスから担任へ涙と笑顔のメッセージが贈られた。生徒退場の際には、卒業生が家族のもとへ花束を渡しに行き、抱擁する姿が見られた。その姿を会場全体が温かく見守り、もらい泣きした来賓、在校生らの拍手に包まれ、卒業生44名は巣立っていった。



未来は自分で作る



春を呼ぶ八戸えんぶりが終わり、寒いながらも日差しが温かさに春の陽気を感じる季節となりました。私たち卒業生四十四名は、卒業を迎えることとなりました。本日はこのような素晴らしい式を挙げていただき、卒業生一同心から感謝申し上げます。

向陵高校で過ごした三年間を振り返るといろいろな思い出がよみがえります。三年前の入学式、私は玄関で両親と別れ、一人で教室へと向かいました。教室の扉に貼っている座席表を確認して教室に入ると、静かな教室で、中学校から知っている人はわずかに数人しかいませんでした。不安と緊張、そして期待をもって入学式に臨んだことを今でも覚えています。入学して数日、友達ができるのか、授業についていけるかなどさまざまな不安が押し寄せました。しかし、勇気を持って話しかけたことで、今となっては最高の友人となり、授業は先生方が一から分りやすく教えてくださり、「勉強ってちょっと楽しいかも」と思えるようになりました。

三年生の皆さんは、どのような学校生活でしたか。部活動に一生懸命取り組んだ生徒、学校行事に力を入れて頑張った生徒、友人との時間を楽しんだ生徒、自分の目標を探した生徒、卒業生一人一人に向陵高校での物語があるでしょう。

そんな私の学校生活の物語が詰まっているのが生徒会活動です。私は二年生後半から生徒会副会長を務めました。最初の生徒会の印象として、コミュニケーション能力が高い人、リーダーシップをとることができる人……。これらの思いから、「私がいる場所ではない」と感じていました。そんな時、先生の勧めと自分自身の新たなスタートを切るために生徒会に入ることを決意しました。事前の準備や、自分の作業が終わったら他の人のサポートをするなど、まず自分ができることから始めました。行事が終わることに、以前の自分と比べて「できることが広がった」と喜びを感じるようになりました。

それと同時に、今年度、最後の文化祭準備期間も思い出の一つです。クラスではテーマに合わせて作品を何にするか話し合い、材料や作業分担を決めました。私は作るものが好きで、毎年、文化祭のクラス展示で中心となって動きました。同じように話をまとめた友人と「最優秀賞をとろう」と心に決め、準備に取り掛かりました。今年度は例年より一日短い準備期間で、三年生にとっては、受験や就職活動、ステーションの練習や準備があり、両立した人も多いと思います。その中で学年にある変化を感じました。昨年の文化祭より男女一緒になって作業をし、一人一人が一生懸命取り組む姿が見られ、各クラス、一丸となった瞬間でした。

しかし、そんな楽しい反面、大変だった時もありました。「ジェットコースターをつくりたい」という話したことで、計画が始まりましたが、懸念する点が多く、課題は山積みでした。日数が少なくなると、不安や焦りから「詰めが甘かった」「何でそんな挑戦をした」と後悔することもありました。

そんな時、「まだできる」「まだ未来は変えられる」と、私の気持ちに希望を持たせてくれたのはクラスメイトと担任の先生でした。当日の朝まで諦めずに取り組んだ結果、最優秀賞を取り、最高の形で締めくくることができました。私の難しい要求にこたえてくださった皆には感謝しかありません。

そして、ここまで育ててくれたお父さん、お母さん。中学校の頃は人前に出て、積極的に活動する子ではなかったけど、向陵高校に入って、生徒会副会長をやったり、文化祭のクラス展示で中心となって動いたり、今も卒業生代表挨拶を読んだりする未来が、当時の私たちには想像もできなかったと思います。こうやってこれからは十八年間支えてくれたお父さん、お母さんのおかげです。本当にありがとうございます。これからもっと成長して恩返しができる大人になるね。

先生方、保護者の皆様、私たちをここまで育ててくださり、本当にありがとうございます。私たちは明日からそれぞれ新しい道へと向かいます。嫌なこと、辛いこと、苦しいことがあっても、向陵高校で学んだチャレンジ精神と感謝する気持ちを忘れず進んで参ります。

向陵高校の益々の繁栄をお祈り申し上げ、卒業する仲間と向陵高校のこれからを支える在校生に向けて、私の好きな映画のセリフを紹介し、卒業生代表挨拶とさせていただきます。

「人間の未来はすべて白紙というのだ」

「未来は自分で作るのだ」

令和八年三月一日 卒業生代表 高橋 愛子(第三中学校出身)



祝辞

厳しい寒さの中にも、どこか春の息吹が感じられる季節となりました。晴れて卒業式を迎えられた三年生の皆さん。本日はご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今日、卒業の日を迎えた先輩方の胸には仲間と過ごしたかけがえない思い出があふれていることと思います。

友人と笑い合った何気ない休み時間、文化祭や体育祭で一つの目標に向かって力を合わせた瞬間、その一つ一つの思い出は、決して特別な出来事だけでなく、日常の中で積み重ねてきた大切な時間だったと思います。そのすべての経験が先輩方の力となり、これから新しい道へ進むための支えになってくれるはずです。

私が、先輩方と過ごしてきた日々の中で特に印象に残っているのは文化祭です。先輩は限られた準備期間の中で、クラスで協力し、一つのものを作り上げていました。クラス展示は、先輩方の絆の結晶そのもので、見る人を圧倒する力がありました。また、展示だけでなく、ステージ発表では、堂々としたパフォーマンスにユーモアが散りばめられており、会場中が大きな笑いに包まれたあの瞬間は、今でも鮮明に記憶に残っています。

私は、一年生の時から、軽音楽部員として先輩方と活動を共にしました。先輩方が奏でる楽器の音色や歌声には普段の先輩方からは想像のできない聴く人の心を震わせる力強いエネルギーが宿っていました。演奏する先輩方の姿は魔法のように私の心に火を灯し、こんな風に演奏したいと思わせてくれました。部室で共に汗を流し、音を重ね、大声で笑い合った時間は、私にとってかけがえない宝物です。

明日から、先輩方がいない校舎を想像すると、心細さと寂しさが込み上げてきます。しかし、いつまでも頼ってばかりではいられません。今度は私たちがしっかりとバトンを受け継ぎ、さらに発展させていくことをここに誓います。至らない点も多い私たちですが、先輩方に教わったことを糧に、一歩ずつ歩んで参ります。

これから先輩方が進まれる新しい道は、決して平坦なことばかりではないかもしれませんが、時には壁にぶつかり、立ち止まることもあるでしょう。そんな時は、向陵高校で共に笑い、共に泣いた仲間が存在、そして、先輩の私たちが心から応援していることを思い出してください。先輩方が持つ強さと気合いがあれば、どんな困難も必ず乗り越えていけると信じています。

最後になりますが、先輩方のご健闘と輝かしい未来に幸多からんことを心からお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和八年三月一日 在校生代表 村田 翼(湊中学校出身)

受け取ったバトンを次に



校内表彰

《漢字検定》 準1級

2年 上井 啓人(第二中学校出身)

《皆勤賞》

1年 小笠原 健悟(五戸中学校出身)

居ヶ内 瑠世(下長中学校出身)

菊地 星風(階上町立階上中学校出身)

黒髭 小太郎(亘理町立逢隈中学校出身)

松川 颯蒼(青森市立沖館中学校出身)

鈴木 柊介(大井町立湘光中学校出身)

堰合 佑多(階上町立階上中学校出身)

山本 奈菜美(三条中学校出身)

頼住 隆汰(厚木市立小鮎中学校出身)

《精勤賞》

1年 榎引 煌星(大館中学校出身)

佐々木 清良(白台台中学校出身)

佐々木 礼登(江陽中学校出身)

山田 倅雅(明治中学校出身)

伊東 茜音(是川中学校出身)

川俣 創(等間市立笠間中学校出身)

五戸 文雅(白銀中学校出身)

坂本 響亮(北稜中学校出身)

高山 勝吏(湊中学校出身)

長谷川 航太(江東区立深川第四中学校出身)

松田 和花(洋野町立種市中学校出身)

吉田 侑加(三沢市立第一中学校出身)

